

info 見守りシールを
見かけたら声掛けを



市では、認知症などの人が行方不明になった際、早期発見につながる「見守りシール」を配布しています。申請方法などの詳細は市HPをご覧ください。

シールを貼った人が困っていたら…

洋服や持ち物にシールを貼った人が困っていたら、声掛けと2次元コードの読み取りをお願いします。読み取り後は、連絡を受けた家族などとチャットでやりとりができます。



問高齢者介護課 Tel 71-2474

9月は認知症月間
オレンジキャンペーンを開催
問高齢者介護課 Tel 71-2474



認知症への理解を深める講座や展示などを開催します。

●認知症サポーター養成講座

認知症の正しい理解や認知症の人への接し方を学びます。

日9月10日(木) 9:30~11:30

陽市役所4階大会議室

費無料 定30人(先着順)

日9月4日(金)までに電話で

●パネル・図書の展示

パネル展示

認知症の啓発や認知症カフェなどを紹介します。

期9月1日(火)~30日(水)

陽市役所1階西側フロア、市内公民館、イオン豊科店

図書の展示

期8月29日(土)~9月23日(水) 陽市内図書館

●オレンジライトアップ

認知症のシンボルカラーであるオレンジ色に市役所をライトアップします。

期9月17日(木)~21日(月) 18:30~20:30

陽市役所2、3階南側ベランダ

Report 安心を贈る認知症マフ

認知症の人が触ったり手を温めたりすることで、不安を和らげる「認知症マフ」。地域でマフを作り、必要とする人に届ける取り組みを紹介します。



思いを込めて楽しみながら

認知症マフはハンドウォーマーのような見た目で、カラフルな飾りが付いた筒状の手編み小物です。7月12日に安曇野市社会福祉協議会と長野ダイハツ販売穂高店が開いたワークショップでは、参加者が会話を楽しみながらマフ作りを体験。使う人の気持ちが明るくなるように、飾りの色や形も工夫して完成させていました。

心が落ち着くお守り

地域の皆さんが編んだマフは、医療機関や介護施設で活用されています。柔らかな触り心地で安心を与えるほかにも、近くにあるだけで気持ちが落ち着くなど、お守りのような効果もあります。

マフの普及に取り組む安曇野赤十字病院の認知症看護認定看護師・飯島久仁絵さんは「マフで患者と職員のコミュニケーションが広がることもある。マフをきっかけに地域の皆さんが認知症に関心を持ってくれるとうれしい」と話し、今後の活動に期待していました。



上:和やかな雰囲気での体験会
右:心を込めて編み上げる
左:完成したマフ。カラフルな飾りが目を引く



誰もが発症する可能性がある

認知症はさまざまな原因によって脳に変化が起こり、それまでできていたことができなくなると、生活に支障が出ている状態のことです。誰もが発症する可能性があり、特別なことではありません。認知症になると、昔のことはよく覚えていても、ついさっきまでしていた行動や会話の内容などは記憶しにくくなります。さらに症状が進むと、今まで覚えていたことも忘れやすくなっていきます。

徘徊や暴言、うつ状態といった症状を思い浮かべるかもしれませんが、これはその人の性格や暮らす環境、心の状態によって現れるもの。周囲の人の関わり方や生活環境を整えると改善できるケースがあります。

地域で見守る・つながるために

これからはさらに高齢化が進み、地域や職場で認知症の人と関わる機会が増えていくことが予想されます。そんなとき大切なのは、慌てず自然に関わること。そのために、まずは認知症を正しく知ることが必要です。誰もが正しく理解していれば、発症したことを本人や家族も周囲に伝えやすくなり、孤立を防ぐことにもつながります。こうした一人一人の心掛けや関わり方が地域に温かな循環を生み、住み慣れた場所ですら暮らし続けられる地域や社会をつくっていきます。



●紙芝居で伝える認知症

アルウィズでは、子どもたちに認知症をわかりやすく伝えるオリジナル紙芝居を制作し、小学校や児童館で読み聞かせを行っています。

まずは知ることから。
心掛けが支えになります。

Interview 認知症×地域

認知症の人や地域の人たちが立ち寄れるオレンジカフェの運営や認知症への理解を深める啓発活動を行っているNPO法人アルウィズ。同法人の小澤さんに認知症の特性や症状、身近な人が認知症になる前から心掛けておきたいことを聞きました。



NPO法人アルウィズ
小澤悠維 さん(38)

●NPO法人
アルウィズ

市内で認知症対応型デイサービス「デイホーム楓」、「縁側処だいたい」を運営。地域に根差したデイサービスを目指し、地元の区に加入して地域活動にも参加する。

pick up 出番が居場所をつくる

畑仕事や料理、洗濯物を畳むなど、まるで自宅で過ごすような時間が流れる認知症対応型デイサービス「縁側処だいたい」。全て自分でやるのは難しくても、工程を区切ってサポートするとできることが増えるといいます。認知症になっても、その人の長所や強みを生かして「役に立っている」と思える出番があれば、そこが居場所になる。そんな思いを大切にしているこの場所は、今日も活気であふれています。



縁側処だいたいの畑で野菜の収穫を楽しむ皆さん